

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470800194
法人名	(有)カナガミケアリンク
事業所名	グループホーム 花水木
所在地 (電話番号)	宮城県角田市角田字中島上170-21 (電 話)0224-61-2777

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 14 日

## 【情報提供票より】20年10月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8, 5

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有( 円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり	35,000 円	

## (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86, 4 歳	最低	80 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人金上仁友会 金上病院・黒須歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

できることは今以上に、できないところは尊厳をもって手助けをする。入居者の生活歴を掘り下げ、些細な言葉や行動から入居者の思い想いを汲み取り、職員の想いも大切にしている。管理者の言葉と、入居者からも指摘や注意をされることもあり、双方のコミュニケーションが取られていると感じられた。家族の協力を得ての帰宅したり、お墓参りなど家族との繋がりを大切に、通所介護サービスやショートステイも行い、地域のニーズに応えるべく柔軟な対応を行っている。主治医の往診も始まり、付き添いの看護師との関係作りをしていこうとしていることは、家族にとっても安心感が持てる。法人として職員の外部研修の受講を積極的に勧め、その成果がケアに反映されていることも、職員のヒヤリングからうかがえた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題、金銭管理の家族の確認状況の不備と災害対策であったが、改善されている。しかし、重度化・終末期に向けた方針の共有は、ホームの方針は家族に説明されているが、重度化した際の受け入れ体制、意志確認書が成文化されておらず、今後の課題である。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に記入してもらい、話し合いを持った。昨年の評価にとらわれることなく、別の視点からみることを心がけた。日頃行っていることを文字化することは難しかったが、書くことによりできているところ、悪いところが見えたという。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族には毎月発行される「花水木通信」で会議への参加を呼びかけ、3~4名の参加が得られる。行政から2名、地域の区長、法人代表、職員それぞれの立場から意見交換がなされ、会議録は、花水木通信に掲載される。メンバーに入居者と同じ食事をとってもらうこともある。行政と家族が同席しての話し合いは、双方にとって交流ができるよい機会となっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議の時に、家族会を兼ねて意見や要望を聴いている。要望は少ないが、行事の際の協力の申し出ができるようになった。入居者の日常の様子は面会時に伝えるとともに、健康状態に関しては「受診連絡帳」を用い報告している。遠方の家族には電話で報告することもあり、その際には入居者にも家族の声を聞いてもらう。「花水木通信」は好評であり、今後活発な意見交換ができる関係になっていくことを期待したい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長の協力を得て、地域の行事やクリーン作戦などに入居者と共に参加をする。新年会や敬老会には入居者一人ひとりに招待状が届き、近くの保育園の行事への招待もある。ホームの夏祭りやクリスマス会には町内会の方々も参加してもらうことにより、日頃とは違う開放感が味わえるという。絵手紙やコンサートを開いてくれるボランティアとの交流、「花水木通信」を配布することによりホームを理解してもらう努力をしており、今後気軽に訪問してもらえる働きかけを増やしていきたいとしている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作りあげたこれまでの理念に加え、地域に溶け込んでいき、地域の人達と関わり心穏やかに過ごすことができるよにという思いをこめて、新たな理念を作りあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表も出席して行う毎月の勉強会において、理念に沿ったケアができていくか、できなかったことは何か話し合う。新人職員には理念を説明し入居者と同じ一日を過ごし、ホームの雰囲気、スタッフの様子を観察し意見を聞いてもらう。それを日々のケアを行う上でのコミュニケーションに繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や新年会に、入居者それぞれに招待状が届く。また、保育所の運動会などにも招待され交流が図られている。ホームの夏祭りやクリスマス会には町内会の方々も参加してもらうことにより、日頃とは違う開放感を味わえるという。今後、気軽に訪ねてもらえる働きかけを増やしていきたいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に記入してもらい、話し合いを持った。昨年の評価にとらわれず別の視点でみることも心がけた。日頃行っていることを文字で表すことは難しかったが、書くことによってできているところ悪いところが見えたという。昨年の要改善事項2項目は改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催され、家族・法人代表・ホーム職員・行政・地域住民それぞれの立場から報告や意見交換がなされている。昨年の評価結果についても報告された。会議録・家族への出席の呼びかけは、毎月発行される「花水木通信」にも掲載され3～4名の参加が得られており、行政と家族の交流の場にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政より認知症サポーター養成講座の講師依頼や、運営推進会議においても制度についての説明や、アドバイスをしてもらうなど連携が図られている。新しく赴任した行政の職員も運営推進会議に参加することにより、グループホームや認知症について理解しようと意欲的である。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の生活の様子は面会時に伝えるとともに、健康状態に関しては口頭のみならず、「受診連絡帳」を用いて報告している。金銭管理は「お小遣い帳」に記入し、家族の署名・捺印をもらっている。遠方の家族には電話で報告し、その際には入居者とも会話をしてもらい、行事の時には来訪される。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に家族会を行い、要望や意見を聴く機会にしている。あまり要望などはでないが、行事の協力などの申し出がでるようになったということで、今後活発な意見交換ができるような関係になっていくよう期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年、法人内の異動はなかった。入居者への影響を考えて、体調不良のため自ら退職した職員など、異動や離職で職員が代わることへのダメージはよく理解している。職員が代わる場合一ヶ月くらい新・旧の職員が一緒にケアにあたり、自然な形で交代できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として積極的に外部研修の受講を奨励している。受講後は月に一度の勉強会以外の場を設け共有している。職員一人ひとりのやる気が引き出されていくことが実感でき、入居者の立場にたち、ケアの基本に戻るよい機会でもあるとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入し、積極的に県南ブロックの研修に参加しているが、更に密接に気軽に交流をしていきたいとしている。同法人の他のホームとの合同の勉強会も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでのデイサービスから入所された方は外泊をしたり、自宅で日頃使っていた小物を持ってきてもらうなど、一人ひとりに応じた安心感が持てる配慮を家族の協力を得ながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴を踏まえ、男性の入居者は大黒柱として、看護師をした方には体調管理のアドバイスをもらい、調理やクリーニングなど教わることも多い。会話するなかで些細なことに気づかされたり感謝の言葉をかけてもらうなど、共に生活していることが感じられた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩のときなど個別に話をする時間を取ったり、リラックスしている時に少しずつ話を進めていくなかで、表情から思いや意向を汲み取る努力をしている。ほとんど意思表示のない方でも、家族との短い会話から思いを把握していくようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月間職員が気づいた事を「ケアワークシート」に書き込み話し合いを行う。本人との会話の中から汲み取った想いを含め、家族も参加しての話し合いを行い作成し同意を得て、モニタリングも添えて家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に一度の見直しとなっており、家族の方から見直し時期の声がかかることもある。遠方の家族も3ヶ月以内に一度は面会に来ており、話し合う機会がある。職員で情報を共有し、評価に基づいた見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでの通所介護サービス、空室があればショートステイの受け入れも行っている。利用するにあたり、体験・見学を行ってからのサービス開始となる。家族の状況に合わせた通所時間などにも配慮があり、入居者の外泊、通院の付き添いなどにも柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意を得て、主治医を協力医療機関に変更してもらう。10月より主治医の往診が開始され、同行の看護師のアドバイスをもらうこともできる。他の医療機関を受診する際には主治医の紹介が得られ、受診結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に医療行為が必要となった場合は病院での対処となるが、本人・家族がホームでの生活を希望した場合、その意思を尊重することは伝えている。それについては運営推進会議で報告されてもいるが、指針が成文化されていない。	○	入居者が重度化した際の受け入れ体制、意思確認書を成文化し、早い段階からの話し合いも必要と思われる。それに伴う重度化の身体状況や心理などの研修を行うことにより、職員の想いの統一も図っていただきたい。今後医療連携体制加算を含め考えていきたいとのことであるので期待したい。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては書面で同意を得ている。個人記録は目に触れない所に保管し、排泄の声がけなどの対応に注意し、毎月の勉強会でも常に話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活ができるよう、職員はどのようにケアにあたればよいかを常に意識している。入居者のなにげない一言を捉え、申し送りの際伝えている。買い物や散歩等、本人の希望に沿えるよう、職員のローテーションにも配慮している。更に一人ひとりに寄り添ったケアの充実を図りたいと意欲的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は入居者と共に出かけ、旬の物で季節を感じることもできる。決まったメニューはあるが、その時に食べたいものにも変わることもある。食材から作り方を教わったり、調理を手伝う方、後片付けをする方など役割となっている。その日の献立を話題にするなど、和やかな食事であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日を除いた毎日、希望に沿った時間の入浴となっている。気の合った入居者同士の入浴や、職員と1対1になり、本人の思いを聴くことができる機会でもある。木曜日は個別支援の日として、ふれあいを大切にしている。今後あまり時間にとらわれない入浴支援を行っていきたいとしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のハーモニカ演奏に合わせ大好きな歌を歌ったり、掃除や食事作りなど役割を持って生活している。個別に外出した時やドライブに出かけた時にコーヒーを飲んで帰るなど、目的を持って外出するようにしている。更に持てる力の把握に努めケアに活かしていきたいと意欲的である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や馴染みの商店に出かけての買い物、自宅へ短時間帰ってみることもある。夏祭りなど地域の行事にも積極的に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守ることで、夜間以外は鍵はかけていない。一人で出かけた時には付き添ったり、遠くから見守ることもある。近所の方がそっと電話で知らせてくれたこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間想定も含め、消防の協力を得て防災訓練を行う。隣が法人の社員寮で、災害時には協力が得られる。今後消防署と社員寮直通に連絡が取れるように整備している。災害に対する備蓄も準備している。今後ホームとして、災害時の炊き出しや避難場所として提供していくことも考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録されており、毎週体重測定が行われている。一人ひとりに合わせた刻み食やとろみ食を提供し、今後も工夫を重ねていきたいとしている。献立はバランスを考え立てられているが、専門的な観点からの指導や助言を受けていただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と共に掃除やモップがけを行う清潔感のある居間は、季節の移ろいを感じることができる庭に面し、明るく、畳のコーナーには入居者の見事な生け花が飾られていた。食事の時間が近づくと料理のいい匂いがしてくる中、くつろいだ入居者の姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持ち込んでいる方、また、馴染みの物を持ち込むことで不安感を持つ方など様々で、入居者それぞれの居室になっている。		